第４回

資料1

京都市バスの路線・ダイヤの在り方に関する検討委員会

令和４年１１月１８日
京都市交通局

■ 今後の市バス路線・ダイヤの在り方について（素案）

これまでの議論を踏まえ、今後の市バス路線・ダイヤの在り方について、素案として、基本的な考え方や、これに基づく具体の取組を整理しました。
この素案についてご確認いただき、
・利便性や効率性
・市民生活と観光との調和
といった観点から、更に検討を深めるべき点や、他に加えるべき取組等がないかどうかなど、ご審議をお願いします。

◆ スケジュール等

第1回（6/15） → 第2回（8/31） → 第3回（10/5） → 第4回（本日） → パブリックコメント → 第5回 → 答申

8～11月
今後の市バス路線・ダイヤの方向性について審議

12～1月

2月
答申案のとりまとめ

目 次

01 第３回検討委員会の主なご意見から（今後に向けた考え方）

第3回検討委員会での主なご意見

主な意見		今後に向けた考え方
1日券に関するご意見	ホテル等の宿泊施設に1日券を積極的にPRをしてはどうか。	• いただいたご意見も参考にしながら、地下鉄・バス1日券のPRや販売促進を図ってまいります。
	繁忙期には、地下鉄への分散乗車を図るため、地下鉄・バス1日券を積極的にアピールをするべき。	
	地下鉄・バス1日券の値上げによりお得感が減っているので、地下鉄利用のアピール方法を再検討して欲しい。	
	日付指定の1日券だけではなく、24時間券や半日券の検討も必要。	• 企画乗車券の在り方などについて、混雑緩和に資する料金体系や市民を中心とする利用頻度の高い方を優遇する等の観点等から制度の見直しを行うこととしており、検討委員会でのご意見を今後の参考といたします。
	観光シーズンに地下鉄や民間鉄道が使える「歩くまち・京都レール切符」を発売してはどうか。	
	地下鉄・バス1日券のPRに向けて、価格を見直して欲しい。	

第3回検討委員会での主なご意見

主な意見		今後に向けた考え方
急行系統等に関するご意見	現状では急行系統を復活させるより、既存系統を増便する方が利便性が高い。	• 当面は、既存系統を活用した臨時便や増発、楽洛ラインのような臨時系統の運行で対応いたします。 • 外国人観光客の動向や休日のご利用状況等に応じて、事業性等を検証したうえで、観光地をめぐる急行系統等の運行を検討します。その際、分かりやすさの観点についても留意します。
	主要観光地のみ停車する系統や、堀川通を南北を結ぶ系統も考えられる。	
	前乗りと後乗りが混在していると観光客は混乱するため、前乗り後降り方式の効果を確認した上で推進して欲しい。	
	混雑している急行系統の乗車を避けるため、ひと目で分かるようにして欲しい。	
	急行系統を復活させ、外国人観光客にもわかるようにラッピングをしてはどうか。	
	着席保証されるバスがあれば、魅力的である。	
パークアンドライドに関するご意見	コロナ禍以降、自家用車で訪れる人が増えている。市内中心部に入る手前でパークアンドライドを推進するなど、市内への車を減らしていくことが必要である。	• 関係部局とも連携して、パークアンドライドの推進と公共交通による快適な京都観光に取り組んでまいります。

第3回検討委員会での主なご意見

主な意見		今後に向けた考え方
手荷物に関するご意見	外国人観光客は、大型手荷物を手元から離さない傾向があるため、車内の大型手荷物スペースを無くし、各座席前のスペースを広げる方が望ましい。	• 大型手荷物の車内への持ち込みを制限することは難しいですが、キャリーサービスや一時預かりサービスなどの利用を積極的に案内し、手ぶら観光の推進に努めてまいります。
	手ぶら観光の推進のほか、地下鉄沿線の宿泊施設には、ホームページに地下鉄でのアクセス案内を載せてもらうなど、地下鉄利用を促したい。	
	乗客やトランクで車内が混雑して、前方の降車口まで移動できない。高齢者や子どもが安全に乗り降りできる解決策を。	
生活と観光の分散等に関するご意見	京都駅方面の金閣寺道バス停は、混雑で観光客と市民が錯綜している。	• バスと地下鉄を組み合わせた経路をご案内するなど、ご利用の分散化に努めてまいります。
	秋はオープンキャンパスや大学受験が重なり混雑するので、対策してほしい。	• イベントや入学試験の実施日などには、大学方面行きの臨時便を運行するなどして、混雑緩和に努めてまいります。

第3回検討委員会での主なご意見

<table>
<tr><th colspan="2">主な意見</th><th>今後に向けた考え方</th></tr>
<tr><td rowspan="5">観光の情報に関するご意見</td><td>長時間の乗車を避けるため、所要時間と運賃の情報は、非常に役に立つ。</td><td rowspan="4">・ バスの運行時刻や経路、バス停の位置、運賃などの情報を、誰もが扱えるオープンデータとして整備・公開し、アプリ開発事業者が情報を活用しやすい環境を整えてまいります。</td></tr>
<tr><td>渋滞時に通常時よりも時間がかかる場合は、別のルートを案内してほしい。</td></tr>
<tr><td>混雑の見える化が実現すれば、混雑したバスに乗る時も覚悟して乗車できる。</td></tr>
<tr><td>おむつ替えや授乳用スペース、エレベータの場所などを、アプリ等で検索できるようにして欲しい。</td></tr>
<tr><td>繁忙期の市バスから地下鉄への無料乗継は、もっと周知をするべき。</td><td>・ お客様に広く周知が図れるよう努めてまいります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">観光全般に関するご意見</td><td>民間のシェアサイクルと連携し、鉄道・バス・自転車を組み合わせた観光プランを提示してはどうか。</td><td rowspan="2">・ ご意見も参考にしながら、混雑の緩和に向け、京都市内の移動ルートの分散化を図ってまいります。</td></tr>
<tr><td>京都の観光は、公共交通、自転車、電動キックボード等で周遊可能であることを、行政と一体となって周知する。</td></tr>
</table>

第3回検討委員会での主なご意見

<table>
<tr><th colspan="2">主な意見</th><th>今後に向けた考え方</th></tr>
<tr><td rowspan="6">論点
に関する
ご意見</td><td>京都市のまちづくりや交通に関する考え方など、広い視点からの整理が必要。例えば、歩くまち京都の理念や、地下鉄と市バスは一体であることなど、前提条件的な整理を加えてはどうか。</td><td rowspan="5">・ 市バスをはじめ、公共交通は派生需要であり、持続可能な運営を行っていくには、公共交通を活かしたまちづくりを進め、継続して利用者を確保していくことが重要であると考えています。
・ 京都市の各種施策とも連携して、公共交通の利便性向上と利用促進を図り、市バスネットワークを維持・確保してまいります。</td></tr>
<tr><td>交通の在り方を考えるに当たっては、まちづくりとの関わりが最重要課題である。</td></tr>
<tr><td>住みたい人が住めるまちにしないと、持続可能な交通にならない。</td></tr>
<tr><td>京都市の様々な政策や方針がある中で、観光についてどのように進めていくのかを考える必要がある。</td></tr>
<tr><td>より一層の効率的な経営をする上では、道路環境の整備、渋滞対策も必要。</td></tr>
<tr><td>利用の少ない路線は公共性を踏まえながらも見直しの検討が必要。情報を共有し、地域に考えてもらう機会をつくることや、合意形成のプロセスが大切である。</td><td>・ 市バス路線を維持することが前提ですが、ルートや運行本数等の見直しを行う場合は、データも活用して丁寧な説明に努めてまいります。</td></tr>
</table>

第3回検討委員会での主なご意見

<table>
<tr><th colspan="2">主な意見</th><th>今後に向けた考え方</th></tr>
<tr><td rowspan="5">論点
に関する
ご意見</td><td>地下鉄や民間バスなど、他の交通事業者との関係に留意して市バスの改善策を考える必要がある。</td><td rowspan="2">・「京都市地域公共交通計画協議会」や、その部会である「地域公共交通会議」などでの議論を通じ、他の交通事業者とも連携して、持続可能な公共交通ネットワークの維持・確保に取り組んでまいります。</td></tr>
<tr><td>鉄道事業者や他のバス会社と連携して、少しでも最適な供給を達成できると良い。</td></tr>
<tr><td>バスや地下鉄の魅力を知らない人たちに、利用の動機付けとなる取組をすることが、これからの在り方として必要。</td><td rowspan="2">・様々な機会や媒体を通じ、普段、公共交通を利用しない方も含めて幅広く、また、分かりやすい情報発信に取り組み、市バスの利用促進を図ってまいります。</td></tr>
<tr><td>公共施設へのアクセス情報を方面別に発信するなど、バスの存在をもう一度再認識してもらうための情報発信が必要。</td></tr>
<tr><td>観光関係は、サブターミナルを上手く活用して京都駅から分散させ、バスや地下鉄をご利用いただくようにする。</td><td>・観光シーズン等の繁忙期に、他の交通事業者とも連携して、京都駅一極集中の緩和、移動ルートの分散化を図ってまいります。</td></tr>
</table>

02 今後の市バス路線・ダイヤの在り方について（素案）

・・・別紙参照